まちのたから（28）～文化財室通信～

シリーズ「日本遺産」第3話

前回に引き続き、日本遺産「地蔵信仰が育んだ日本最大の大山牛馬市」第1章、水と大山信仰について紹介します。

雄大な大山が誇る恵みの水

大山には、西日本最大級の面積を誇るブナ林が広がっています。ブナは、日本の温帯落葉樹林を代表する樹木で、大山では標高700mあたりから見られます。ブナ林は「緑の水瓶」と言われるほど貯水力が強く、雨水をたくさん蓄えます。この雨水が、大地に染み込み伏流水となり、湧水として噴き出る形で、大山山麓地域に住む人々の飲料水となっています。

私たち大山町民は、生活の中で大山の自然環境からもたらされる水の恩恵を受けていると言えます。

『大山寺縁起』と「利生水」

『大山寺縁起』には、利寿権現社跡近くにある利生水（水場）の起源について書かれています。

神亀五（728）年三月の頃、行基菩薩が大山にやってきました。文殊童子の社で七日の間、心身を清めて修行をしていた際、水を汲む所が遠く、閼伽水（仏前などに供える水）を供えるのに困っていました。

ある時、行基は咽が乾いたため「文殊菩薩さま、どうかここに水を湧き出させてください」と祈りながら金剛杵で岩を砕くと、そこからこんこんと水が湧き出ました。それ以来、この水は僧侶も世人も白髪に付ければ黒髪となり、飲めば病人もたちまちに全快し、その効き目は驚くほどのものだったとされています。

現在は、残念ながら豊かな湧水量はありませんが、往時の信仰を物語るものです。

▲「利生水」

『利生水』のおかげ

「利生」とは、仏や菩薩が与える利益のことを表します。大山の地蔵菩薩は、山頂の池から現れたとされ、水を恵み、万物を救う仏であると信じられてきました。

日本遺産のストーリーでは、大山から湧き出す清らかな水は、大山そのものとされた神・大智明権現すなわち地蔵菩薩がもたらす恵みの水であるとして、広い意味合いで「利生水」（地蔵菩薩が与える利益の水）という表現をしています。大山山麓の水は、飲料水メーカーの商品化もされており、大山がもたらす恵みの水としての視点からも取り上げられています。

大山信仰

大山の「地蔵菩薩」は「水」と密接に結びついて信仰されており、「大山信仰」では、地蔵菩薩の加護を求めて大山に参詣した人々は、大山の水も「利生水」として頂きました。

大山信仰は、やがてこの山麓地域をはじめ、山陰・山陽諸国にまで信仰圏を広げていきました。

（人権・社会教育課　文化財室）

「家庭の日」作品コンクール 作品を募集します

青少年育成大山町民会議では、毎月第3日曜日を「家庭の日」として、家族がそろって過ごすことを提唱しています。この取り組みの普及を図るため「家庭の日」作品コンクールを行っています。『家族』が表現された出来事や風景を作品にして応募してみませんか。

◆**募集作品**　絵画・写真・ポスター
※ポスターは中学生のみ
◆**応募資格**　町内の小・中学生、町内在住の方、町内事業所等にお勤めの方
◆**応募期間**　8月25日（金）～9月11日（月）
◆**テーマ**「家族」
◆**表彰**　作品、部門ごとに表彰
＊応募者全員に参加賞があります。
※応募の詳細は、人権・社会教育課生涯学習室または中山・名和・大山の各公民館にある募集要項をご覧ください。
◆**問い合わせ先**　人権・社会教育課生涯学習室内（青少年育成大山町民会議事務局）
☎0859-54-5212